

# 情報ネット後志

NO. 13 2015年1月

発行：後志農業改良普及センター

地域の話

平成25年度に成果の上った活動

生産組織の活動紹介



平成26年の普及活動をふりかえる

所長 出雲 将之

農業改良普及センターは昨年、「経営改善によるゆとりの創出」や「水田の直播栽培普及」「フルーツトマトの産地化」「直売所を通じた農村集落の活性化」、あるいは「果物加工で付加価値向上を図る」など、26の地域課題と4つの広域課題に取り組みました。現場で農業者の方々とともに動くことにより、地域の農業が抱える課題を解決する成果が出てきています。普及センターでは、成果をもとに地域の担い手育成、省力化技術の導入、高収益低コスト栽培の推進など、本年も後志農業のために汗を流す所存です。

## 「夢の農業へ前進・・・増えつつあるGPSガイダンス」

担当：南支所 地域係

農業改良普及センターは、今話題の先進農業機械の活用や研究開発の状況を調査しています。

黒松内町では、衛星測位システムを利用したGPSガイダンスの利用者が増えつつあります。

Tさんは、土改剤散布や防除に利用。防除時のマーカー設置が不要になり、1人で作業ができたと省力効果を感じています。今後は水田の代掻きにも利用する計画です。

Sさんは、ハンドル自動操舵補助システムも搭載。ハンドルを握らなくていいので管理作業に集中できる、夜間作業でも走行軌跡が確認でき、合わせ部分の作業重複が避けられる、とメリットを感じています。

無人トラクタが畑を走り回る超省力農業の実現は近いのかもしれませんが。



運転席のタッチパネル式モニター



GPS農業研究会の活動を調査（新篠津村）

## 平成 25 年度に成果が上がった活動

### 「秋まき小麦の安定生産に向けて」 ～ 倶知安町 ～

担当：本所 調整係

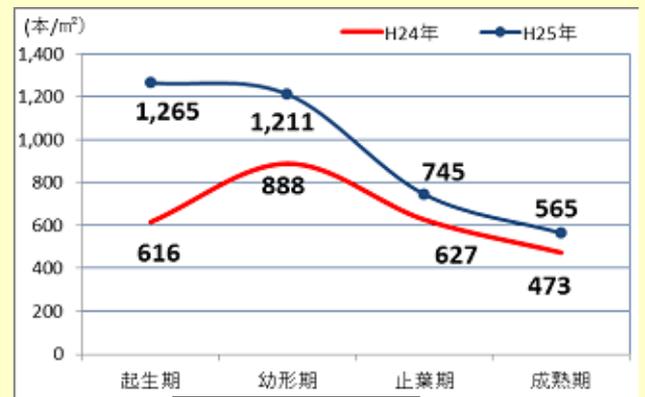
倶知安町は道内有数の豪雪地帯で積雪期間が長く、小麦栽培には不利な条件が揃っています。しかし、小麦は輪作上欠かすことのできない作物として位置づけられています。その小麦を安定的にたくさん穫りたい！と願う生産者は多く、生産組織として優良生産者表彰を行い、切磋琢磨しながら生産性向上の努力を続けてきました。



現地研修会で起生期茎数を把握

#### <「きたほなみ」導入！しかし思うように収量が上がらない？>

試験栽培の時は、ホクシンより多収であった「きたほなみ」。しかし、導入が始まると生育パターンが異なることから収量が安定しませんでした。そこで、倶知安町内の小麦生産者の協力を得て、どのような生育経過をたどるか実態をつかむことから始めました。平成 24 年度の結果では、施肥量は同じでも、生育に応じた施肥が適期に実践されていないことで期待した収量が確保できていない事例が見受けられました。



茎数・穂数の推移

H24 は起生期の茎数が少なかったことで、穂数が確保されず、減収となってしまった！



そこで、平成 25 年度は生育に応じた施肥を行いました。その結果、調査に協力していただいた生産者の小麦では穂数が確保され、目標収量が確保できました。

#### <きたほなみの安定生産を目指して>

平成 26 年は、客観的なデータに基づいた肥培管理ができるように農業試験場で開発された「きたほなみ生育管理ツール」の活用を検討しました。試算通りにいかないのが作物生産の難しいところではありますが、経験と勘に加えて過去の生産実績を加味した施肥体系が提示されることで、安定生産に寄与できるのではないかと考えています。実際にこのツールを使用した生産者からは「施肥の目安になるのがいい！」と概ね好評を得ています。今後は、更に検討を加えて、この生育管理ツールが実用的になるように農業試験場と連携して更なるバージョンアップと安定生産を目指したいと考えています。



きたほなみ生育管理ツールの講習会

## だいこん栽培で見直すポイントは？

留寿都村はだいこんの産地として10年以上の歴史をもちますが、収量の個人差が大きい状況でした。そこで、基本的な栽培技術の見直しを行いました。

## 防除するなら、効果的に！

まず、効果的な害虫防除を目的として、は種機の改良を農業改良普及センターから提案しました。これにより、虫害が減少し、薬剤コストの削減にもつながりました。この取り組みは、講習会などを通して、JAようてい大根生産組合全体へも波及しました。



は種機の改良事例



は種機改良で収量アップ！

## 密植は多収とならない！

## 栽植密度の見直しを提案！

農業改良普及センターはJAと協力して、栽植密度の実態調査を行い、密植によるリスクを周知しました。その結果、生産者は栽植密度を見直し、品質の向上を目指した栽培が行われました。

今後も関係機関と連携して、だいこんの安定生産のために、生産者の技術の底上げを支援していきます。



講習会や青空教室で情報提供

# 「Let's . . . Together 赤井川村のPRは俺たちに任せろ！」

担当：北支所 地域第二係

赤井川村農業元気グループ「Together」は平成19年に設立された若手農業者グループです。メンバーは現在15名で、農業後継者の他に新規参入者、そして夫婦で参加している会員もいて、会合はいつも活気があります。

4月に会長宅で総会を開き、1年間の活動を決めた後は、賑やかに焼き肉が始まります。新規参入者にとっては日頃の営農の疑問を相談したりと大変貴重な情報収集の場にもなっています。

今年は、赤井川村の美しい景観をPRするために会員と協力してひまわりを植えたり、カルデラ盆地で育ったからこそうまい！赤井川村の農産物を食べてもらうために食のイベントに参加しました。

活動8年目を迎え、後継者も経営者になり忙しい毎日ですが、「Together」での活動を通じて赤井川村のおいしい農産物と風景をこれからもPRします。



暑さで俺たちもこんがり焼けるぜ！（マルシェ）



総会の後は楽しい焼き肉だー



カルデラ盆地をバックにひまわりユラユラ

## 【Togetherの主な活動】

- 2月 シーニックナイト（赤井川村）参加
- 4月 総会
- 6月 ひまわりは種
- 8月 「食とアートが出会うマルシェ」（札幌）参加  
アグリフェスティバル参加

### 後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭57-1  
TEL 0136-22-1072  
FAX 0136-22-4744  
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

### 南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内309  
TEL 0136-72-3161  
FAX 0136-72-3456  
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

### 北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町11番地1  
TEL 0135-22-5135  
FAX 0135-22-5987  
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp